

AREA.Fukuoka-Pref.
AREA.Saga-Pref.

福岡県、佐賀県

60 唐津湾

からつわん

Karatu Wan

海域の概要

本湾は、九州北部に存在する湾で、北部を日本海に開いています。湾奥には唐津港があり、古くから「唐の津」と呼ばれて、国際港として栄えてきました。湾奥には虹ノ松原と呼ばれる砂浜海岸があります。



Specification

諸元

湾口幅：10.7 km

面積：150 km²

湾内最大水深：3.2 m

湾口最大水深：3.2 m

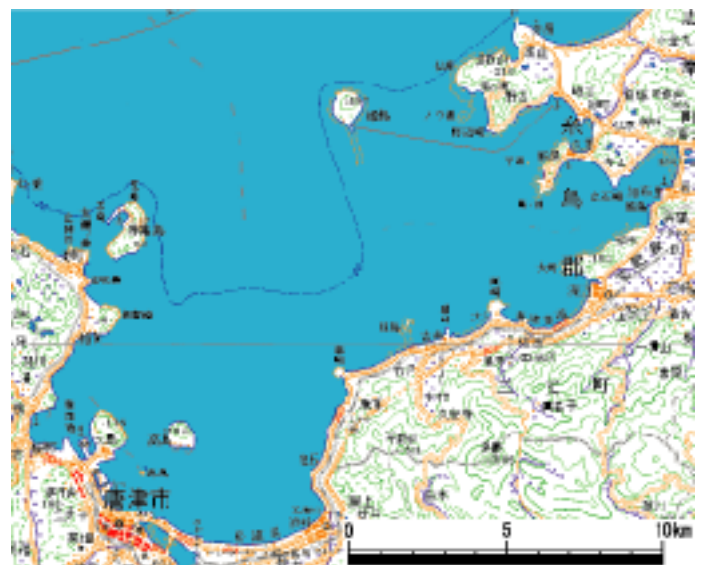
閉鎖度指標：1.14

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

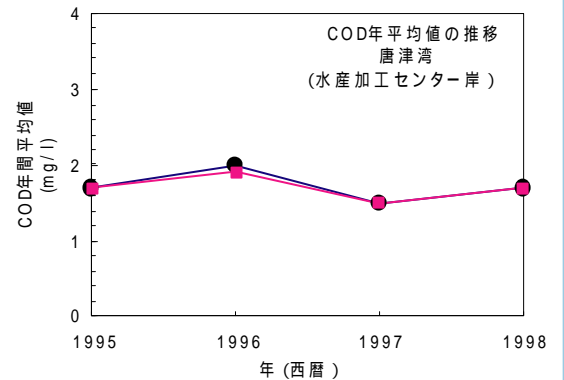
福岡県糸島郡志摩町仏崎と同町姫島東端を結ぶ線、堂島西端と佐賀県唐津市荒埼を結ぶ線、同市兜鼻と同市女瀬鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

唐津湾は湾の奥行きに対して湾口が広い、比較的開放的な湾で、全般に水質は良好ですが、背後に唐津市を擁し、松浦川が流入する湾西岸では、水質悪化が見られます。この海域の COD 年平均值では 2mg/l となっています。

湾内の底質は、砂泥質の海底に所々岩が分布しています。



自然

唐津湾は古くは深い入り江で、河川による沖積作用により干潟を形成していましたが、近世初期の松浦川の改修や海岸線の改修などにより、現在の海岸線となっています。湾内には、虹の松原の白砂青松と七ツ釜、立神岩の玄武岩の海蝕地形などの景観を見ることができ、沿岸の大部分が玄海国定公園に指定されています。

湾内の岩礁域には、ホンダワラ類やクロメ、ワカメなどを主体とする藻場が分布し、湾の東端の加布里の地先には干潟も分布しています。

白砂青松の唐津湾沿いには、日本三大松原の一つである「虹の松原」があり、松林は全長約 5 km に及び、幅約 1 km 植えられている松は約百万本といわれています。

また、天然記念物にもなっている屋形石七ツ釜は、玄海の荒波が玄武岩の断崖が浸食されて生まれた七つの洞窟で、日本最初の海中公園に指定されています。



虹ノ松原

文化歴史

唐津港は、玄界灘に面した静穏な港で、「唐の津」と呼ばれるように古くから朝鮮半島や大陸との交易で栄えてきました。明治以降は石炭の積出港として、大正時代は外国貿易の拠点として発展した港で、現在は、電力や石油関連企業が立地しています。また、水産加工団地も整備されて今日に至っています。

港湾内部には、最大水深 13m の岸壁など 24 パースがあり、県北部の経済の拠点としての機能を果たしています。

唐津くんちは、唐津っ子の産土神である唐津神社の秋祭りで 11 月初旬に開かれます。



唐津くんち

産業

唐津湾内では小型底びき網（えびこぎ網）でヒラメやカレイ類、クルマエビ等が、その沖合の壱岐水道では主に釣りでマダイやイカ等が漁獲されています。また、唐津市には水産種苗センターが設置され、クルマエビ、ガザミ等が大量に放流されるなど栽培漁業も盛んです。

観光業も盛んで、玄界国定公園の一部をなす港の近くには景勝「虹の松原」や唐津城があり、毎年夏には海水浴客で賑わう浜辺が続き、海洋レクリエーション拠点として重要な役割も果たしています。